

溶剤リサイクル、次代へ

日本リファインの挑戦

グローバル市場における溶剤リサイクル需要の高まりを受けて、世界5極で供給体制の構築を進める日本リファイン。世界市場でその存在感を発揮しようと急ピッチで取り組みを進めている。モノづくり大国の地位を築き上げてきた日本。わが国発のリサイクル技術が活躍するステージは今、世界に広がっている。

「溶剤のリサイクル事業が拡大しています。2011年6月期の売上高は100億円を突破し、これまでの取り組みが具体的な形になって現れてきた。200億円もそう遠くはない。規模の面においては中国市場の拡大、寄与度が大きい。液晶、リチウムイオン電池などの分野で現地メーカーが急速に力をつけている。先行きの事業環境も悪くない。溶剤の精製、リサイクル需要は世界レベルで確実に高まっ

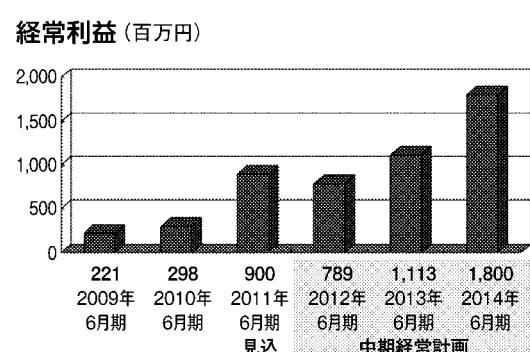
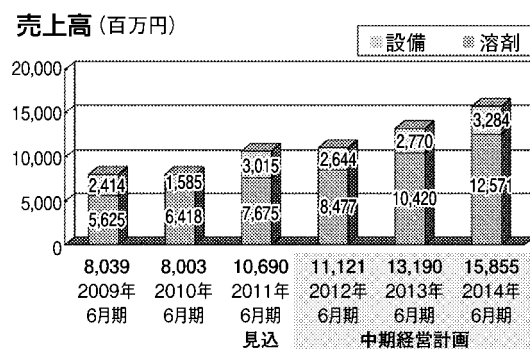
川瀬 泰人社長



インタビュー

量的拡大と質的發展を両輪に一段の拡大を進める

グループ連結業績



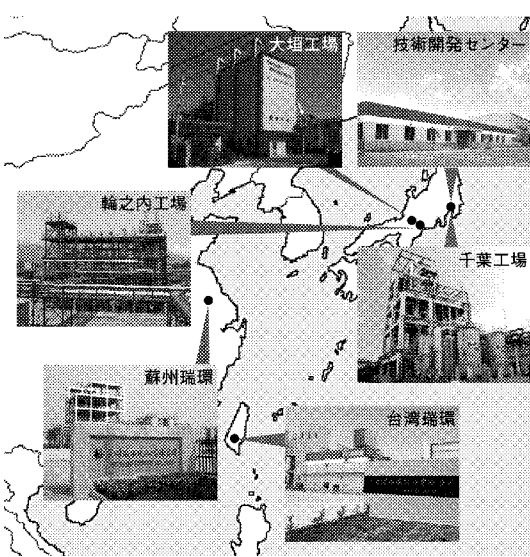
新中期経営計画

日本リファインは7月31日の中期経営計画をスタートする。最終年度に当たる2014年6月期に連結売上高158億円(10年度予想比1.5倍)、当期利益11億円(同2.8倍)の目標を掲げる。この数字は「顧客からの具体的な要請を積み上げた」(長谷川光彦管理部門長兼経営企画部長)堅い内容だが、ハードルは決して低くない。世界で高まる環境意識をいかに追い風にするか。中計のスタートは「グローバル企業として第一歩を踏み出す」(川瀬泰人社長)大きな意味を含んでいる。カギを握るのが中国市場の存在だ。急成長する巨大マーケットで、溶剤リサイクルのトップ企業としてどうシェアを拡大するか。その一歩として、現地子会社の蘇州瑞環(江蘇省)がある。蘇州工業園(江蘇省)だ。江蘇省内に拠点を構える企業へのアプローチに重点を置く。



6月22日に開かれた台湾瑞環台南工場の開業式であいさつする川瀬泰淳董事長

グローバル企業へ 一步を踏み出す



世界5極体制へ

6月22日、日本リファインの台湾子会社、台湾瑞環台南工場の開業式が開かれた。瑞環は5億円、タッチパネル液晶や化学製品、電池、電子材料の製造工程で使う溶剤をリサイクルする。年間出荷量は5000トンの規模になる見通しだ。台湾瑞環は09年の設立。10年間に液晶パネルの製造工程で使う、高純度の再生装置「SRS」など、揮発性有機化合物(VOC)リサイクル装置の施工、メンテナンスを中心に手がけてきた。現在では世界一安いと言われる台湾メーカーの液晶パネル、理由の一つに製造工程で大量に使用する溶剤の存在が上げられる。台湾メーカーにリサイクル装置をいち早く供給したのが日本リファイン。その技術が台湾メーカーのパネル生産のコスト競争力に大きく寄与してきた。これまで培った納入先との密接な関係を生かして現地事業を拡大する。

既存3拠点を拡大する一方で、日本リファインは新しい市場を見つめる。欧州と米国だ。欧米はゼロからのスタートになるが、環境意識の高い欧州で不動の地位を築けば、溶剤リサイクルの業界で名実ともに世界トップの地位を手にすることになる。

新たな羅針盤

グローバル展開によって国内拠点は、マザー工場としての位置付けがより鮮明になる。現在、千葉、輪之内の両工場に大垣工場(岐阜県大垣市)を加えた3工場合計で、年間3万70000(10年6月期実績)の溶剤を出荷し、海外向けを含めたVOC回収装置の製作も手がけている。日本市場においてはLIB向けを中心にNMPは大巾な伸びを見込むが、長引く不況の影響もあって、決して樂觀できる状況にない(長谷川管理部門長兼経営企画部長)。

テーマは資源循環と環境保全

量的拡大と質的發展を両輪に一段の拡大を進める

「7月スタートの中期経営計画で約30億円の設備投資を実施する。この数字はかつてない規模だが、効果は鮮明に見えている。その一つ、台湾の生産拠点も6月に立ち上げ国内の規模を上回る可能性が十分にある。日本、中国、台湾、そして欧州、米国、世界5極の供給体制を整えて、次代を見据えた日本リファインの新しい姿を描き出す。

「顧客が当社を求めている。それがすべて」(川瀬社長)。環境という時代の追い風を受けて、新たなフェーズに差し掛かる日本リファインは、グローバル企業としての青写真を鮮明に描き出し、次の目的地に羅針盤の針を合わせている(おわり)

資源循環と環境保全に貢献する



日本リファイン株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-2-1 岸本ビル 11F
TEL: 03-3201-3333 FAX: 03-3201-3322

<http://www.n-refine.co.jp/>